

2014年3月4日

報道関係者各位

No.62112

株式会社東陽テクニカ

## 世界初、NICTによる8K非圧縮映像「さっぽろ雪まつり」の超高速伝送実験に 東陽テクニカが協力団体として測定器を提供

[株式会社東陽テクニカ](#)(本社:東京都中央区、代表取締役社長 五味 勝、以下「東陽テクニカ」)は、独立行政法人情報通信研究機構(以下 NICT)が主催する”さっぽろ雪まつり”の実証実験において、東陽テクニカが総代理店となっている米国スパイレントコミュニケーションズ社(以下「スパイレント社」)製“[Spirent AXON](#)”(以下「アクソン」)と米国フルークネットワークス社製“[Network TimeMachine](#)”(以下「NTM」)を提供しました。

### 【測定器提供の背景とNICTの実験概要】

NICTは、2003年より、新世代の情報通信技術(ICT)の有効性確認を目的とし、“さっぽろ雪まつり”会場からの高解像度映像伝送をはじめとする広域かつ多機能なネットワーク運用技術のフィールド検証を行っています。今回は、8Kおよび4K<sup>\*1</sup>の超高精細映像データを同時かつ非圧縮で長距離伝送する実験を東京～大阪間および北海道～仙台～東京～大阪～福岡～沖縄間において実施することとなりました。

東陽テクニカは、北海道、東京、沖縄の各拠点に[アクソン](#)および[NTM](#)を設置。[アクソン](#)では、拠点間のネットワーク疎通確認や遅延測定および各種アプリケーションの負荷試験を行い、SDN/OpenFlow<sup>\*\*2</sup>ネットワークの品質測定に使用しています。

[NTM](#)はSDN解析ツールとして、OpenFlowセキュアチャンネルトラフィックのキャプチャおよび解析、コントロールパケットとデータパケットの相関分析を複数拠点で同時にキャプチャ&分析することで使用しています。今後、SDN対応の通信網および100ギガビットイーサネットの普及がますます加速することが期待されています。東陽テクニカは、世界最高品質かつ低コストである「日本品質」の提供を目指し、情報通信基盤の進化をサポートしていきます。

### 関連リンク

[NICT プレスリリース「世界初、8K非圧縮映像“さっぽろ雪まつり”の超高速伝送実験に成功」\(2014年2月5日発表\)](#) <http://www.nict.go.jp/press/2014/02/05-1.html>

[米国スパイレントコミュニケーションズ社 (Spirent Communications)について]

[スパイレントコミュニケーションズ社](#)は、研究開発ラボや通信事業者、通信機器製造会社、一般企業のIT部門などで使用されるテスト機器の製造販売やコンサルティングサービスを行う業界のリーダ企業です。同社のソリューションはSDNをはじめ100Gハイスピードイーサネットの有線から無線通信、衛星通信に至るまで、あらゆるお客様のQoE(Quality of Experience)を高めることができます。東陽テクニカは同社の日本国内における総代理店です。

[“Spirent AXON”(アクソン)について]

「[アクソン](#)」は、米国スパイレントコミュニケーションズ社が培ったノウハウをもとに、高度な技能が要求されているネットワーク機器評価や運用ネットワークの性能評価試験が、簡便に出来るように設計、企画されたアプライアンスツールです。

負荷試験ツールは高価であり、習得に時間がかかるものの、実際使用するのはその一部の機能にすぎないことが多くあります。アクソンは L2-3 トラフィックテストからアプリケーショントラフィックテスト、セキュリティチェック (DOS)まで幅広い試験がクリック&スクロール&ドロップで簡単に実施できます。アクソンは従来の試験のイメージを変える画期的な測定ツールです。

[米国フルークネットワークス社について]

[フルークネットワークス社](#)は、お客様の機器配備を迅速化しネットワークおよびアプリケーションパフォーマンスを向上させるネットワークテストおよび監視ソリューションの世界的リーディングプロバイダーです。フルークネットワークス社の製品と専門技術は、今日の過酷な問題や WLAN セキュリティ、モビリティ、ユニファイドコミュニケーションやデータセンターにおける新たな課題を解決する上で、大手企業やサービスプロバイダから大きな信頼を得ています。本社は米国ワシントン州エベレット市にあり、世界 50 カ国以上に製品を販売しています。

[“Network Time Machine” (NTM)について]

米国フルークネットワークス社製“[Network TimeMachine](#)”シリーズは、ネットワークからキャプチャしたトラフィックを直接大容量HDDに書き込んでいく、大容量ネットワークアナライザです。1G/10GbE ネットワークの回線を流れるトラフィックを内蔵の大容量のディスクに長時間にわたり保存し、ネットワーク通信障害や不正アクセス/情報漏えいなどのセキュリティ・インシデントが発生した際に問題の packets データを抽出し詳細な解析を行うことが出来ます。

[株式会社東陽テクニカについて]

東陽テクニカは昭和 28 年の設立より「技術と情報」をキーワードに、最先端の「測るツール」を主として欧米の電子計測器メーカーより輸入し、日本の技術発展に寄与することを使命として、日本の研究者・開発者に提供してきました。「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー・トレーニングなどの取組みは、400 人を超える全従業員の 8 割を占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。東陽テクニカに関する詳細は、<http://www.toyo.co.jp> をご覧ください。

“アクソン”およびスパイレント社製品と“NTM”およびフルークネットワークス社製品に関する

お問合せは下記までお願いします。

株式会社 東陽テクニカ 情報通信システム営業部

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 e-mail: [spirent-web@toyo.co.jp](mailto:spirent-web@toyo.co.jp)

また、当社に関するご質問は下記までお願いします。

株式会社 東陽テクニカ 経営企画室

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 e-mail: [kikaku@toyo.co.jp](mailto:kikaku@toyo.co.jp)

\* 記載されている会社名、製品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。

\* 記載の商品名、価格および担当部署、担当者、Web サイトの URL などは、本リリース発表時点のものです。

## ※1 8K および 4K

4K は、2014 年夏にも開始を目指していると言われる次世代の高品質テレビ規格。現行のフルハイビジョンの画素数(約 200 万)の 4 倍にあたる 800 万画素を持ち、高精細な映像品質を実現する。横 3,840 × 縦 2,160 の画素数であり、横方向の画素数が約 4,000 であることから 4K とされる。

8K は、NHK 放送技術研究所が中心となって開発されているテレビ規格であり、4K の 4 倍、現行のフルハイビジョンの約 16 倍にあたる 3,300 万画素を持つ。横 7,680 × 縦 4,320 の画素数であり、横方向の画素数が約 8,000 であることから 8K と呼ばれ、ウルトラ HD もしくはスーパーハイビジョンとも呼ばれる。NHK は、2020 年にもスーパーハイビジョンの本放送を目指すとしている。

## ※2 SDN/OpenFlow

米国 Stanford 大学が中心となり設立した「OpenFlow コンソーシアム」が提唱しているネットワーク技術及び制御プレーンインタフェース仕様の総称。通信の制御方法をソフトウェアで定義する SDN(Software Defined Network)技術の一つとして注目されている。現在、Open Networking Foundation (ONF)にて、業界標準化仕様策定に移行しており、相互互換性を高める配慮がなされた上で機能の修正が行われた仕様 v1.4 が 2013 年 10 月に発表された。